
轍～俺は君の隣にいる～

山本 晃義

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

轍　俺は君の隣にいる

【Nコード】

N3200P

【作者名】

山本　晃義

【あらすじ】

それまで恋愛という恋愛をしたことがなかった山上　明彦だが、二年に進学したある日、クラスメートになった秋山　楓に一目惚れする。

幼馴染みの久保川　優美の協力もあって仲良くなれるも、ある日、楓が実は岐阜から二年前に引っ越してきたことを知り、その時に見た動揺が気になった明彦は楓の過去を聞き出そうとしたが、逆に楓の過去の傷をえぐる結果となってしまふ。果たして明彦と楓の二人の恋愛は上手く行くのか・・・？

進級

・・・人生というものはここまで残酷でいいものなのであるうか。人生とはここまで悲しみをこらえなければならぬものなのか。クラスメートは視線をこちらに向けては笑い、先生は目を合わせようともしない。早く終わって欲しい。こんな授業なんて。こんな授業なんて・・・。

「キーンコーンカーンコーン」

チャイムが鳴った。そして日直が大きな声で号令をかけ、授業が終わった。その瞬間、俺は一目散にトイレに駆け込んだ。

「うおおおおオオオオオ・・・！！！」

野球の盗塁の時より速かったと思う。それほど早くトイレに逃げ込めたかった。そして俺は急いで着替えを済ますと、教室に戻った。

「ゆ・・・優美・・・！！お前は・・・お前という奴は・・・このヤロー・・・！！」

「あははははゝでも似合ってたぢゃゝん」

そうだ。こいつが犯人だ。この窒息寸前の息苦しい時間の基を作り上げた犯人だ。確かに俺は一年から続けていた昼休み恒例になっていた、優美・来斗・龍弥との大貧民大会に負けた。しかもよりによって今日は罰ゲームをつけやがった。この優美が！！久保川 優美が！！その内容は世にも恐ろしいものだった。

『次の授業を全身タイツで受ける』

まあクジで引いたものだったので文句は言えないが、しかし酷過ぎやしないか・・・？

「おかげで好きな日本史の授業が史上最低の授業になっただろうが！！あの先生は今年からの新任の先生なんだぞ！いきなりこんな格好を目の当たりにされたらそういうことをやりがちな生徒だと思われるだろう！！」

半泣きで優美に抗議する俺を龍弥が「まあまあ」と止めにはいる。

「まあいいじゃん。この際だからそういうキャラになってみるっていうのもアリじゃないかな」アハハハ」

・・・こいつ・・・幼馴染みでなければ殺してた。確実に殺してた・・・！！俺の黄金の右手が震えている・・・！！

「それにしてもさー」

来斗が口を出してきた。

「そのタイツどこで買ったの？」

そっちかよ……。まあ来斗の天然はおいといて……。今はこの腐れ縁が災いしてしまったこの魔性の女に鉄槌を下さなければ……！！

「キーンコンカーンコン」

……。ちつ。6限のチャイムか。命拾いしたな。そういう意味を込めて優美を一睨みしておいた。優美はケタケタと笑っていた。二年になって三日が経った。まだ一人病欠で来れてない奴もいるらしいが、とりあえずだいぶ顔と名前は一致してきた。人の顔と名前を一緒に覚えることには自信がある。窓際にいる、いつもボーツとした感じのアイツは須藤。クラスで一番賑やかな友達グループの中でムードメーカーの役割をしているのは幡野。そして俺の隣にいるコイツは……。誰だっけ？

「馬鹿野郎！俺を忘れるな！」

あーこいつは岩村来斗だったか。失敬失敬。この岩村との付き合いは高校入学からとそこまで長くはないが、今では親友とも呼べる間柄にまでなっている。男の俺が見ても相当なイケメンであり、事実女子にはかなりモテる。しかし、まだ誰ひとりとして付き合ったことがないという。その理由は……。

ある日の出来事だった。来斗が神妙な面持ちで俺のところに来てきた。よくみると、ほおが少し腫れ上がっていた。

「なあなあ、聞いてくれよ」

「どうしたんだよ、ほっぺた赤く腫れ上がらせて。」

「あのさ、一組の後藤って知ってるか？」

「ああ、あの小柄の黒髪のやつか。そいつがどうした？」

「いやー実はさ、さつき屋上に呼び出されて買い物一緒に行ってく
れって感じで言われたから「わかった。どこに？」って答えたら
いきなり「はっ?!」って言われてさ、それで「買い物だろ?」っ
て答えたらいきなりビンタしてきたんだよ。ワケ分かんなくね?」
・・・ん?なんだ?違和感を感じる・・・。

「何だよそれ。ワケ分かんねーな。」

「だろ?自分から呼び出しておいて買い物場所も買いたい物すら
言わないでいきなりビンタしてくるんだからよ。」

「んで、ちなみに後藤にはなんて言われたんだ？」

この質問の答えが、こいつへの印象を決定づけるものとなった。

「いや、なんか「私と付き合って下さい」って顔を赤くして言っ
たよ。よっぽど恥ずかしいものを買いたかったんだな。」

・・・んがっ?!こいつ・・・本気で言ってるのか?本気で言っ
てるのか?!もひとつおまけに本気で言ってるのかー!!!

「馬鹿野郎!!それって「好きだから付き合って」って意味だろー
が!!決して「買い物付き合って」って意味じゃねーぞ!!」

「え?!そうなの?!」

間違はなく本心から驚いた顔だったな、今の。その顔で驚けること
が驚きだよ。

とまあこんなことがあったのが去年の5月上旬。もちろん、この後
藤という子は二度と来斗には近付かなかったそうだ。そんな訳で未
だに彼女が出来ない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3200p/>

轍～俺は君の隣にいる～

2010年12月5日19時48分発行